

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2021. 10. 13 第 28 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』第 57 巻第 2 号（第 222 号）の発刊案内1
 - 1-1 目次
 - 1-2 編集後記2
2. 編集委員会からのお知らせ.....2

1. 『農林業問題研究』第 57 巻第 3 号（第 223 号）の発刊案内

1-1 目次

<研究論文>

圃場分散と農業集落の地理的・社会的条件—空間計量経済分析によるアプローチ—
岡村伊織・藤栄 剛

<個別報告論文>

都市部における食品事業者と農家の連携に関する一考察
—鳴門屋製パンのファームマイレージ 2 運動への参画を事例として—
中塚華奈

海外酪農経営における ICT 導入およびクラスター形成の可能性
長命洋佑・南石晃明・横溝 功・佐藤正衛

<書評>

Yasuo Ohe 著『Community-based Rural Tourism and Entrepreneurship: A
Microeconomic Approach』
八木浩平

1-2 編集後記

コロナ収束の兆しがみえないなか、オリンピックが開催され、さまざまな議論(問題)を引き起こしながら、あっという間に夏が終わろうとしています。日常生活に普段以上に気をつけなければならず、また、研究の面では十分な現地調査ができないという状況が、何もせずに1日が過ぎてしまったという感覚に拍車をかけているかのようです。そのような時間感覚の一方で、わたし自身、自由に移動し、調査ができたこと自体を、改めて考えなおす契機になっていることも事実です。

2. 編集委員会からのお知らせ

9月25日(土)に開催された常任理事会において、編集関連の規定類の一部が改正されました。会員のみなさんに是非とも知っておいていただきたいことですので、以下、ご報告いたします。

(1) 論文の投稿資格

近年、研究倫理上の観点から「不適切なオーサーシップ」が問題となっています。これは、投稿論文の執筆やそのための研究活動に実質的な貢献をしていないにも関わらず、論文の共著者として名を連ねるような行為を指しています。これによって研究者が自身の所属大学から処分を受けた例もあります。本学会からこうした問題が発生しないためにも、『『農林業問題研究』投稿規程』の一部を改正して、共著者として名を連ねるための条件(投稿資格)を設けました。具体的には以下の通りです。

研究論文と個別報告論文については、その著者(筆頭著者、責任著者とそれ以外の共同執筆者を含む)は、全員が、次の①、②、③の3つの条件をすべて満たしていなければならない：

こちらができることは、なんとか工夫をしながら、研究をとめないことでしょうか。

さて、学会誌223号が刊行となります。研究論文と書評がそれぞれ1本ずつ掲載されています。研究が着実に進められていることを示すためにも、学会誌の発行は必要不可欠です。今年度から編集に携わり、その大変さ、責任をひしひしと感じております。どうぞよろしく願いいたします。(K.S)

①以下のA～Cのいずれかを実質的に担っていること。

(A) 研究の構想あるいはデザイン

(B) データや資料・史料の収集

(C) データや資料・史料もしくは解釈

②論文の草稿を執筆している。あるいは草稿の重要な専門的内容に関して校閲を行なっていること。

③投稿原稿および出版原稿の最終版を承認していること。

この改正に対応して、論文の投稿フォームにて、すべての共著者が上記の条件を満たしているか否かをチェックする欄を設ける予定ですので、ご協力お願いいたします。

(2) 論文原稿のページ数上限の条件付き緩和

これまで、研究論文では、規定ページ数は8ページで、超過ページは4ページまで、つまり合計12ページが上限でした。しかし論文のWordテンプレート上では12ページであるにも関わらず、組版後には13ページに増えてしまう事態が起りえしました。同様に、個別報告論文の上限は8ページですが、組版後に9ページと

なる事態が度々発生していました。従来、こうした場合には、著者に何とか内容を縮減してもらい、ページ数が上限に収まるようにしてきましたが、これには限界がありますし、すでに査読を通った原稿に手を加えることは好ましくありません。また、印刷を依頼している中西印刷によると、技術上の問題で、テンプレートの改善ではこの問題は解決しないとのことでした。

そこで、原稿の入稿時点（つまり Word テンプレート段階の原稿）のページ数の上限は現行通り（研究論文は 12 ページ、個別報告論文は 8 ページ）としつつ、組版後のページ数がそれに 1 ページ追加されることを許容することとします。ただし、その追加される 1 ページ対して、掲載料も 5000 円追加してお支払いいただくこととなりますので、どうかご理解ください（「投稿規程」ならびに「個別報告論文投稿要領」の改正）。

(3) 著作権取扱い要領の改正—学会誌掲載論文を博士論文の一部として利用する場合

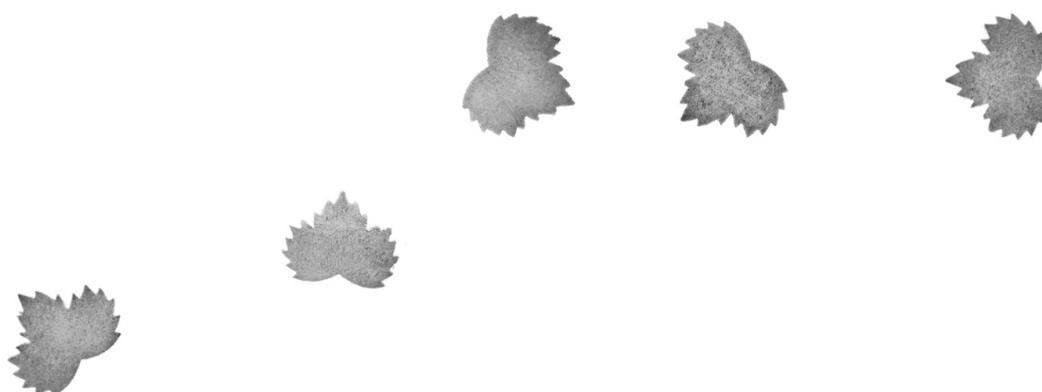
「地域農林経済学会著作権取扱い要領」が定める通り、『農林業問題研究』に掲載された論文（以下、掲載論文）をその著者や第三者が転載したりする場合には、編集委員会に利用申請を行って許可を得る必要があります。しかし、掲載論文の著者がそれを自身の博士論文の一部として利用する場合には、学会としてはそれを必ず許可する必要がありますし、それによって本学会の利益が侵害されることはないと考えられます。

そこで、著者が掲載論文を自身の博士論文の一部として利用する場合には利用申請は不要とします。ただし、初出論文として挙げるなど、該当部分が学会誌掲載論文に依拠していることを必ず明記してください（「地域農林経済学会著作権取扱い要領」の改正）。

以上について、ご質問等ありましたら、編集委員会までお寄せください (editors@a-rafe.org)

★編集後記

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（堀田 学 horita@fpu.ac.jp または辻村英之 tsujimura.hideyuki.8m@kyoto-u.ac.jp）まで、積極的にお知らせ下さい。（M.H.）



学会配信メールの受信設定のお願い

最近、地域農林経済学会の配信メール（地域農林経済学会事務局 arfe@nacos.com からの一斉配信メール）が迷惑メールボックスに入ってしまう現象が多くみられます。配信側で可能な対策は講じておりますが、会員の皆様におかれまして受信状況をチェックいただき、受信側での対策として受信設定をお願いいたします。

今後も学会の大会情報などをメール配信いたしますので、お手数をおかけしますが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

【1】 地域農林経済学会の配信メールが受信できているかどうかご確認をお願いします。

直近では、6月に、第5回国際ワークショップについてのメールを配信しております。送信元は、地域農林経済学会事務局<arfe@nacos.com>です。受信トレイに問題なく届いている場合には、以下の【2】の受信設定をしていただく必要はありません。

受信トレイに届いていない場合には、迷惑メールボックスに入っていないかどうか、ご確認をお願いします。そのうえで、【2】の設定をお願いします。

【2】 地域農林経済学会のドメインの受信設定をお願いします。

配信メールが通常の受信トレイに届かない場合には、受信側の設定として、配信元メールアドレス「arfe@nacos.com」のドメインである「@nacos.com」の受信設定をお願いします。

<受信設定の方法について>

今回とくに問題が生じているのがGmailで受信する場合ですので、例として、Gmailの受信設定の方法をご案内します。

「Gmailでメールアドレスの受信設定をする方法」

<https://office-hack.com/gmail/receive-settings/>

【配信メールが迷惑メールボックスにも届いていない場合】

メールアドレスが登録されていない、または、登録メールアドレスの更新がされていない可能性があります。地域農林経済学会オンライン会員情報管理システム e-naf (<https://www.e-naf.jp/ARFE/member/login.php>) にログインのうえ、会員情報の確認・更新をお願いします。パスワードおよび登録メールアドレス不明のためにログインができない場合には、学会事務局（arfe@nacos.com）までご連絡ください。

地域農林経済学会ニューズレター 第28号

発行日：2021年10月13日

ARAFE Newsletter No.28

Oct 13 2021

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）
